



何とかしよう！《課題解決力》



西春別中学校長 綾野 正巳

自動車メーカー・ホンダの創業者、本田宗一郎さんの伝記に、こんな話があります。

小学生の頃、通知表を親に見せられず、消しゴムでハンコを作って担任に返したところ、見事に成功しました。宗一郎さんなりに、親に叱られないための「解決策」を考えたのです。ところが、友達の手で調子に乗って作っていたら、左右対称でない名前をそのまま彫ってしまい、悪知恵がばれてしまったというエピソードです。

この話を知ったとき、私も似たような経験を思い出しました。幼稚園の頃、登園すると出席カードにスタンプを押す決まりがありましたが、私は早く遊びたくて、ある日「全部押してしまえばいい！」と思いました。何とも浅はかなアイデアです。案の定、1週間もしないうちに先生に見つかり、こっぴどく叱られました。さらに「家に持って帰って消してきなさい！」と言われましたが、母に言えば先生の数倍の制裁があることは分かっていたので、そこで、どうすれば母に見つからずにスタンプを消せるか、一生懸命考えました。幸い、私には2人の兄がおり、当時流行っていた「砂消しゴム」を持っていることを思い出して、こっそり拝借して見事に消すことに成功。難を逃れることができました。50年以上前のことですが、「砂消しゴム」のすごさと、自分なりに考えた「解決策」（悪知恵）を今でも覚えています。

この話でお伝えしたいのは、解決策を思いつけば絶望しないということです。子どもたちには、問題が起きたときに自分で考え、乗り越える力＝「課題解決力」を身に付けてほしいと願っています。これから先、子どもたちは様々な課題にもぶつかります。そのとき、暗記していた知識だけでは乗り越えられません。最近の高校・大学入試でも、知識を活用して解決策を考える問題が増えています。社会が求めているのは、知識を活用し、課題を解決できる人材です。暗記の量ではコンピューターにかないません。言われたことをそのままやるだけの仕事は、ロボットやAIに代わる時代がすぐそこまで来ています。

なにより、解決策を考えられる人に絶望はありません。どんなに大変なことが起きても、前を向いて歩くことができます。そのためには、普段から「何か解決策があるはず」と考える習慣を付けることが大切です。今、学校現場で求められている「主体的で対話的な深い学び」は、まさに思考力を高め、課題解決力を育てるものです。そして、本校の教育目標である「未来を拓く生徒の育成」―活用する力・行動する力・協働する力・社会を創造する力―は、子どもたちの課題解決力を高めていくことが目標の一つです。

来年、3年生は高校進学、1・2年生は統合と、大きく環境が変わります。困ることや戸惑うこともあると思います。しかし、何度もお伝えしてきたように、**「ピンチかチャンスかは考え方次第」**です。考える力を磨き、課題解決力を鍛え、どんな時でも絶望ではなく希望をもって生きていく力を身に付けてほしいと願っています。

保護者の皆様、地域の皆様、閉校記念式典をはじめ、
今年一年のご協力に心より感謝申し上げます。
新しい年も、引き続きよろしくお願いいたします

